

平成27年1月29日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 学校法人 光華女子学園

所 在 地 京都府京都市右京区西京極野田町39

代 表 者 職 氏 名 理事長 阿部 敏行

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	きょうとこうかこうとうがっこう	ふりがな	ちょうじゃ みさと
学校名	京都光華高等学校	校長名	長者 美里
ふりがな	きょうとこうかちゅうがっこう	ふりがな	ちょうじゃ みさと
学校名	京都光華中学校	校長名	長者 美里
ふりがな	こうかしょうがっこう	ふりがな	かぶらぎ よしお
学校名	光華小学校	校長名	鏑木 良夫

## 3. 研究内容

## (1) 研究開発課題

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき、自国の文化の理解・発信能力の育成とグローバル化社会に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材（児童生徒）育成のための英語教育の構築を図る。

## (2) 研究の概要

グローバル化する社会の中で、将来、世界の人とともに生きる力を育成することを目標とする。他国の人々とコミュニケーションが円滑に図れる人となるための英語教育構築を図るために、小・中・高の一貫性のある英語教育を系統的に実施する。一貫した学習到達目標・カリキュラムづくりを縦軸とし、つきたい力の系統性・評価方法・指導内容・指導方法を横軸として効果的な方策を探り実践する。その際に、本校がすでに取り組んできている日本の伝統文化や京都ならではの年中行事、地域や学校独自の行事についての教育との連携を図る。そのことに加え、他教科とも連携した単元を折り込むことによる、独自教材等も開発していく。小学校においても文字を扱うこととし、中学・高校においては、言語活動の高度化を図るための指導内容・指導方法についての研究を行う。この研究の推進にあたり、地域の大学とも連携し、指導教員の授業改善・指導力向上等の人材育成を図る。

## (3) 現状の分析と仮説等

### ①現状の分析と研究の目的

#### ア. 現状の分析

小学校・中学校・高等学校の英語教育について各校、それぞれが独自で英語教育を行っており、小・中・高と英語教育において一貫性のある英語教育が行われていない現状がある。理由としては以下のように分析できる。

- ・ 本校小学校では長年 Oxford の本を使用しており、指導をネイティブにまかせ、学級担任が英語活動を担当していない現状がある。発達段階に応じた指導が行われていない現状がある。
- ・ 公立小学校において学校間で英語活動の指導力・指導内容において格差があるため、中学校英語入門期には生徒の英語学習に対する姿勢にもかなりのばらつきがみられる。
- ・ 文字導入が中学校で行われているが「読むこと」「書くこと」の学習に支障をきたす生徒がいる。
- ・ 高校では大学入試を意識するあまり文法訳読式授業になりがちである。そのため、4技能を意識した指導やコミュニケーション能力が身につけていない。活かしたコミュニケーションの場での英語という意識付けや活動があまり実施できていない。

#### イ. 研究の目的

グローバル化に対応した英語によるコミュニケーション能力を育成するため、以下のことについて実践し、児童生徒の英語力向上に寄与するかを確定していく。

- ・ 教育課程を見直し、小・中・高等学校をつなぐカリキュラムを作成し、「CAN-DO リスト」の形での一貫した学習到達目標を設定し、それを検証する。
- ・ 指導計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じてどのような指導内容・指導方法・教材が効果的であるといえるのかどうかについて検証する。

- ・ 日本の伝統文化・行事、地域・学校行事、他教科との連携をより推進し、それらを組み入れた単元開発を行う。そのことで、児童生徒の生きた言語活動に寄与するかどうかを検証するものとする。
- ・ 小学校での英語指導は専科と学級担任とで行い、専科・学級担任のそれぞれの役割や効果的な授業づくりについて検証する。
- ・ 「読むこと」「書くこと」への円滑な移行のために小学校より段階的に文字指導を導入し、中学校段階での「読むこと」「書くこと」に支障をおこす生徒を減らすことができるかどうか、また、英語学習への心理的な負担軽減について検証を行う。
- ・ 小学校間での格差をなくすための中学校入門期の指導内容・方法について検証する。
- ・ 中・高を通して、高度化した「読むこと」「書くこと」の言語活動を実践し検証する。
- ・ 「聞くこと」「話すこと」については、中・高等学校では小学校での言語活動を基に、生徒の発達段階に応じた言語活動を行うとともに、少し「背伸び」をさせる活動に取り組みせることで、より高度の言語活動にもあえて挑戦させ、これらの活動が英語コミュニケーション能力の確実な習得に向けて効果的であるかどうかについて検証する。
- ・ 指導者の授業力向上を図るための研修会等を設定する。指導者が孤立することなく連携することにより、指導者の心理的な負担を軽減させる。このことで系統的な英語教育を確実に実践できるかどうかについて検証する。
- ・ 必要に応じて、電子黒板といった ICT 機器による教育も積極的に活用していく。よりオーセンティックな英語に触れさせる機会を学習者に提供できると考える。そのことで学習者が英語に親しみを覚え、英語使用への心理的なハードルを低めることができるかどうかについて検証する。

## ②研究仮説

- ① の現状の分析と研究目的から以下のような手段に従って研究を行う。

### ウ 具体的手段

- ・ 小学校での英語授業時数の検討とモジュール時間と正規授業の持ち方、また子どもの発達段階、興味・関心や地域・学校行事等にも連携した小・中・高等学校のつながりのある効果的なカリキュラムづくりを行う。
- ・ 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を作成する。
- ・ 各段階での力の系統性についての評価方法についての研究を行う。
- ・ 日本の伝統文化・行事、地域・学校行事や他教科の連携も考えた単元教材の開発を行う。
- ・ 小学校での「活動型」「教科型」の授業をふまえ、指導者は専科と学級担任で行い、それぞれの役割を考え、効果的な授業づくりを行う。
- ・ 「読むこと」「書くこと」への円滑な移行のために小学校より段階的に文字指導を導入する。フォニックスや読み聞かせを行い、中学校での「読むこと」「書くこと」へのスムーズな移行をおこなうための指導法の確立と教材を開発する。また、中学校では高校での高度化した言語活動につなげるために、まとまった文を読んで自分の考えや意見を書くことができる指導方法の確立と教材を開発し実践する。
- ・ 小学校間の格差をなくすための効果的な入門期の指導内容・方法等研究を行う。

- ・ 高校では論理的に書くための効果的な音読指導を取り入れ、さまざまな英文を読んだり、論理的にまとめた英文を書いたりすることができる力の育成を図るための指導方法の確立と教材を開発し実践する。
- ・ 「聞くこと」「話すこと」については、中・高等学校では小学校での言語活動を基に、生徒の発達段階に応じた言語活動を設定する。小学校段階では学校行事・伝統文化や他教科との連携での学習情報を与え、それらのことを発表する力を育成する。中学校段階では、スピーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・ミニディベートを行い、それについて英語であいづちや質問をしたり、簡単なコメントを述べたりできる力を育成する。また、自国の文化について理解する力を育成するとともに、日本文化について触れる中で、改めて発見・理解したことを自分のことばで述べたり、発表したりする力を育成し、高校への言語活動につながる。高校段階では論理的にスピーチ・プレゼンテーション・ディベート・討論などを行い、それについて質疑応答やまとめたコメントが述べられるような力を育成できる言語活動に取り組む。また、自国の文化等の理解とそれらを発信する中で、自分の意見と他の意見を比較・討論・交渉できる力を育成する。
- ・ 京都外国語大学をはじめとし、学識者を招き、指導・助言もいただきながら公開授業・授業研究・研修会、授業研究等を設け指導者の授業力向上を図る。
- ・ 地域人材の積極的な活用を進める。
- ・ ICT機器やCD・DVD等を活用したりして、効果的な授業を組み立てる。

### 〔発音と綴りとを関連付けた指導について（構想）〕

#### 〈第1段階〉

文字は、はじめは書かせず、ひたすら英語の音と音素に慣れさせる。カード等を見せながら、アルファベットの形、線の上か下か、全身を動かして音のイメージをつくる。

（音声教材・ナーサリーライム・チャンツ等使用）

#### 〈第2段階〉

アルファベットを、音を聞きながら言いながら書く。単語を聞いて綴りを想像させたり、アルファベットカードで3文字ぐらいの単語を作ったりして定着を見る。

#### 〈第3段階〉

二重母音、二重子音など、かるたやDVDなどを使って導入する。

単語を聞いて、綴りを想像させたり、アルファベットカードで3文字ぐらいの単語を作ったりして定着を見る。

#### 〈第4段階〉

Active Phonicsのようなテキストを使用し、中学校につながる文字指導をする。

具体的成果としては以下の点が挙げられる。

#### エ 期待される成果

- ・ 各段階での学習到達目標を設定したカリキュラムづくりや各段階での力の系統性・評価方法を確立でき、小・中・高等学校の円滑な移行ができる。
- ・ 児童生徒の発達段階に応じた英語による発信型のコミュニケーション力をつけることが期待される。

- ・ 自国を愛し、自国の文化等について、自分のことばで発信できる人材を育成できる。
- ・ 中学校での「読むこと」「書くこと」への生徒の負担軽減を図ることができる。
- ・ 発表、討論など自分の意見・考えを論理的に表現できる人材が育成できる。
- ・ 指導者の授業力向上が期待できる。
- ・ ICT 機器を利用した英語教育について、一定の知見を示すことができる。

## ② 研究成果の評価方法

研究成果の評価方法として以下のことが挙げられる。

- ・ 学力テスト・定期的なテストの実施による評価
- ・ 授業観察による評価
- ・ パフォーマンステストの活用による評価
- ・ CAN-DOリスト（学習到達度）の活用
- ・ 発表・作品・ワークシート等による評価
- ・ 各授業内での目標設定と自己評価シート・相互評価シートの活用
- ・ 児童生徒、指導者、保護者を対象としての英語教育に関する意識調査による評価
- ・ 各種検定試験の活用による評価

## (4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第1～4学年 1コマ	第1・2学年 1コマ 第3・4学年 2コマ(モジュール9分×5回含む)	第1・2学年 1コマ 第3・4学年 2コマ(モジュール9分×5回含む)	第1・2学年 1コマ 第3・4学年 2コマ(モジュール9分×5回含む)
②小学校 教科型	第5・6学年 1コマ	第5・6学年 3コマ (モジュール9分×5回含む)	第5・6学年 3コマ (モジュール9分×5回含む)	第5・6学年 3コマ (モジュール9分×5回含む)

## (5) 研究計画(平成26年度の進捗状況・課題)

第一年次～第四年次、校種別

### 小学校（教科型）

〔第一年次〕（試行年度とする）

#### 研究の重点

- ・ 文字導入も含め、中学校への円滑な移行のための効果的なカリキュラムづくりを行う。
- ・ モジュールのカリキュラムと指導方法を研究する。
- ・ 学習到達目標を設定する。

### 実践内容の概要

- ・ 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定と評価方法についての研究を行う。
- ・ 他教科や学校行事・日本の文化等とも連携したカリキュラムづくりを行う。
- ・ 作成したカリキュラムを2学期には試行して、評価を行い修正する。
- ・ 「読むこと」「書くこと」の導入として読み聞かせとフォニックス指導を行う。
- ・ 担任による読み聞かせ活動を行う。
- ・ 専科と学級担任による効果的な授業の研究を行う。
- ・ 絵辞典も活用し、語彙指導を行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

### 使用教材及び開発する教材

- ・ Let's go 2
- ・ Oxford Reading Tree
- ・ 独自のフォニックス教材
- ・ 他教科・臨海学校、修学旅行等学校行事に関連した独自教材
- ・ 絵辞典

### 〔第二年次〕

#### 研究の重点

- ・ 第5学年から本格的に「読むこと」「書くこと」にも触れながらの効果的な言語活動について研究を開始する。

### 実践内容の概要

- ・ 学習到達目標と評価について検証を行う。
- ・ モジュール学習についての研究を行う。
- ・ 他教科・日本の伝統文化・学校行事等と連携したタスク活動を実践する。
- ・ フォニックスを用いた文字指導を行う。
- ・ 読み聞かせを継続的に行い、多読についても指導を行い「読むこと」「書くこと」の素地をつくる。
- ・ ピクチャー・ディクショナリーを用いた辞書指導
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

### 使用教材及び開発する教材

- ・ 文科省作成の補助教材
- ・ Let's go 2
- ・ Oxford Reading Tree
- ・ 独自のフォニックス教材

- ・ 日本の伝統文化・臨海学校・修学旅行にちなんだ独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ ピクチャー・ディクショナリー

### 〔第三年次〕

#### 研究の重点

- ・ 第二年次の課題を踏まえた「聞くこと」「話すこと」の能力の向上を目指す。  
また「読むこと」「書くこと」の効果的な言語活動についての指導方法を開発する。

#### 実践内容の概要

- ・ 「聞くこと」「話すこと」の力をつける言語活動の指導内容・方法の確立と実践
- ・ フォニックスを用いた文字指導
- ・ 低学年児童対象読み聞かせ会
- ・ 辞書の活用による語彙力の定着、促進
- ・ 検定試験への取り組み
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 文科省作成の補助教材
- ・ Let's go 2
- ・ Oxford Reading Tree
- ・ 独自のフォニックス教材
- ・ 独自教材
- ・ ピクチャー・ディクショナリー

### 〔第四年次〕

#### 研究の重点

- ・ 「聞くこと」「話すこと」を中心に「読むこと」「書くこと」の指導も加えて、初歩的な英語運用能力を育成する。

#### 実践内容の概要

- ・ 「聞くこと」「話すこと」の力をつける言語活動の充実
- ・ フォニックスを用いた文字指導
- ・ 低学年への読み聞かせ会
- ・ 辞書を活用し、語彙力をつける
- ・ 「読むこと」「書くこと」の継続指導とそのことへの検証
- ・ 検定試験の取り組み
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

### 使用教材及び開発する教材

- ・ 文科省作成の補助教材
- ・ Let's go 2
- ・ Oxford Reading Tree
- ・ 独自のフォニックス教材
- ・ 独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ ピクチャー・ディクショナリー

### 小学校（外国語活動型）

#### 〔第一年次〕（試行年度とする）

##### 研究の重点

- ・ 効果的なカリキュラムづくりを行う。
- ・ 学習到達目標を設定する。

##### 実践内容の概要

- ・ 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標の設定と評価方法についての研究を行う。
- ・ Hi, friends! を中心に他教科や学校行事とも連携したカリキュラムづくりを行う。
- ・ 担任による読み聞かせ活動を行う。
- ・ 専科と学級担任による効果的な授業の研究を行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

### 使用教材及び開発する教材

- ・ Hi, friends! 1,2
- ・ Hi, friends! 準拠デジタル教材
- ・ 独自教材
- ・ Let's go 1
- ・ Oxford Reading Tree

#### 〔第二年次〕

##### 研究の重点

- ・ 「聞くこと」「話すこと」について児童の実態に応じた効果的な言語活動について研究を行う。
- ・ 外国の文化と自国の文化について理解したり、触れたりする活動を取り入れる。

##### 実践内容の概要

- ・ 学習到達目標と評価について検証を行う。
- ・ 「聞くこと」「話すこと」の言語活動について指導内容・指導方法の研究を行う。



- ・ 他教科・日本の伝統文化・学校行事等と連携したタスク活動を開発する。
- ・ 外国や自国の文化について理解したり、触れたりできるような単元や教材を開発する。
- ・ 児童の発達段階に応じた読み聞かせ教材の開発と読み聞かせ活動を継続的に行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）
- ・ 効果的なICT機器の活用について研究する。

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ Hi, friends! 1,2
- ・ Hi, friends! 準拠デジタル教材
- ・ 独自教材
- ・ Let's go 1
- ・ Oxford Reading Tree

#### 〔第三年次〕

##### 研究の重点

- ・ 第二年次の課題を踏まえた「聞くこと」「話すこと」の効果的な言語活動の向上を目指す。
- ・ 授業内・外で学習したものを発表する場を設定し、英語への興味・関心を図る。

##### 実践内容の概要

- ・ 「聞くこと」「話すこと」の言語活動の指導内容・方法の確立と実践
- ・ 読み聞かせから発表への活動の場を設定する。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ Hi, friends! 1,2
- ・ Hi, friends! 準拠デジタル教材
- ・ 独自教材
- ・ Let's go 1
- ・ Oxford Reading Tree

#### 〔第四年次〕

##### 研究の重点

「聞くこと」「話すこと」を中心に、読み聞かせ活動を継続的に行い、小学校教科型に移行できる素地をつくる

##### 実践内容の概要

- ・ 自分の思いや感想を述べることができる場面設定・指導法・教材について更なる研究を行う。
- ・ 読み聞かせ活動を通して、あいづちや自分の思い・感想を表現する活動に取り組む。

- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ Hi, friends! 1,2
- ・ Hi, friends! 準拠デジタル教材
- ・ 独自教材
- ・ Let's go 1
- ・ Oxford Reading Tree

### 中学校

#### 〔第一年次〕

#### 研究の重点

- ・ 小学校での英語教育の流れにたち、中学校への円滑な移行のためのカリキュラム・学習到達目標の設定・評価・指導内容・指導方法についての研究を行う。
- ・ 小学校でのモジュール授業の継続の方法と正規授業との繋がりを意識したカリキュラムの研究を行う。
- ・ 英語による発信型のタスクづくりを行う。

#### 実践内容の概要

- ・ 小学校英語を踏まえた「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定と評価方法についての研究を行う。
- ・ 小学校英語とのつながりのあるカリキュラムづくりと自分の思いや考え・意見を述べることができるような單元ごとのタスクを設定し、学習したことを活用したり、学校独自の行事とも関連したタスク活動の開発を行う。
- ・ 自己表現や語彙力強化のための辞書指導を行う。
- ・ 「書くこと」への抵抗をなくすために、文字指導（フォニックス）や文構造を意識して論理的にまとめた英文を書くことができる力の素地を育成する。
- ・ 英語によるスピーチ・プレゼンテーションの基礎力育成を行う。
- ・ 聞いた内容について、あいづちや質問したり、コメントを述べたりできる力を育成する。
- ・ 「読むこと」への抵抗をなくすために、授業内・外で定期的に英文を読む時間を設定する。
- ・ 授業は英語で行うことを基本とする。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書、ワークブック
- ・ 活用型タスクで使用する独自教材
- ・ 文字指導（フォニックス等）の独自教材

- ・ 辞書
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

### 〔第二年次〕

#### 研究の重点

- ・ カリキュラム・学習到達目標・評価・指導内容・指導法についての検証と修正を行う。
- ・ 国語科とも連携をし、論理的に「書くこと」「話すこと」の研究を行う。

#### 実践内容の概要

- ・ カリキュラム・学習到達目標・評価計画の検討及びその修正を行う。
- ・ 開発したタスクの検討と修正を行う。
- ・ 論理的に「書くこと」「話すこと」の指導方法の開発を進める。
- ・ 質問力をつける指導方法について研究を進める。
- ・ スピーチ・プレゼン・ディスカッションの指導を行う。
- ・ 多くの英文に触れる機会を設定する。
- ・ 外部検定試験の活用
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書、ワークブック
- ・ 活用型タスクで使用する独自教材
- ・ 辞書
- ・ 多読用教材
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

### 〔第三年次〕

#### 研究の重点

- ・ 授業内外での英語運用能力を育成する。
- ・ 小学校での英語教育を受けた生徒の入学に伴い、小学校英語についての格差解消に向けての英語教育を実施する。

#### 実践内容の概要

- ・ 小学校において教科化された英語教育を受けた生徒と受けていない生徒について、指導時間、指導内容、指導方法の研究を行う。
- ・ 校内の英語環境の整備をする。
- ・ 異学年間・異校種間の英語交流を行う。
- ・ ICTを活用したプレゼンテーションを実施する
- ・ 多読用教材を活用する。
- ・ 英語集会等英語を使う機会を設定する。（行事等）

- ・ 外部検定試験の活用
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書・ワークブック
- ・ タスクで使用する独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ 辞書
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

#### 〔第四年次〕

##### 研究の重点

- ・ 高校への円滑な接続のため、高度化した言語活動に向けて、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

##### 実践内容の概要

- ・ 言語活動の内容や質・量を増加する。特にスピーチ、プレゼン、ディスカッション・ディベートなどの発信型授業を多くする。
- ・ 自国の文化や特色について英語で発信できる力をつける。
- ・ 学習到達目標と言語活動の検証を行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）
- ・ 4年間の取り組みの検証

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書、ワークブック
- ・ タスクで使用する独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ 辞書
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

#### 高等学校

##### 〔第一年次〕

##### 研究の重点

- ・ 中学校からの円滑な移行のためのカリキュラム・「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定・評価・指導内容・指導方法についての研究を行う。また高度な自己表現力の育成を図るための効果的な言語活動について探る。

##### 実践内容の概要

- ・ 中学校英語を踏まえた「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定と評価方法についての研究を行う。
- ・ 中学校英語とのつながりのあるカリキュラムづくりと学習したことを活用したり、学校独自の行事とも関連したりできるタスクの開発を行う。
- ・ 高度な言語活動についての研究と指導法を研究する。特に論理的思考力を育成し、スピーチ・プレゼンテーションを重点的に実践していく。
- ・ 聞いた内容について、あいづちや質問したり、コメントを述べたりできる力を育成する。
- ・ 自己表現につながる音読指導について研究をすすめる。
- ・ 授業内・外で定期的に英文を読む時間を設定する。
- ・ 授業は英語で行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書
- ・ 学校行事と連携したタスクで使用する独自教材
- ・ 多読用教材（レベル別 ステージ1～2）
- ・ 辞書
- ・ 資格取得用教材
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

### 〔第二年次〕

#### 研究の重点

- ・ 1年次のカリキュラム・学習到達目標・指導内容（教材）・指導法・評価についての検証と修正を行う。
- ・ 論理的に「書くこと」「話すこと」の研究を行う。
- ・ 学校行事（修学旅行等）での交流体験をもとにしたプレゼンテーションを ICT 機器も活用して行う。

#### 実践内容の概要

- ・ 論理的にまとまった英文を書くことができる力を育成する。
- ・ カリキュラム・学習到達目標・評価計画の検討及びその修正を行う。
- ・ 開発したタスクの検討と修正を行う。
- ・ 高度な言語活動について、さらなる研究と指導法を開発する。特に論理的思考力を育成するために、スピーチ・プレゼンテーション・討論などを行い、聞いた内容について質問したり、まとまったコメントを述べたりできる力を育成する。
- ・ 多読におけるリーディング・サマリー作成をおこなう。
- ・ 論理的にまとまった英文を書き、それをスピーチにより内容を伝える力を育成する。
- ・ 異文化間、異学年間の英語交流を行う。
- ・ 行事における英語活用能力をつける。

- ・ 指導者の研修会実施

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書
- ・ 学校行事と連携したタスクで使用する教材
- ・ 発信型タスクを用いた独自教材
- ・ 多読用教材（レベル別 ステージ3～4）
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

#### 〔第三年次〕

##### 研究の重点

- ・ より高度な言語活動（スピーチ・プレゼンテーション・ディベート・交渉等）の実践を行う。
- ・ 社会的な話題や時事問題について情報の概要を的確に理解し、積極的に意見交換ができる力を育成する。

##### 実践内容の概要

- ・ スピーチ・プレゼンテーション・エッセイライティング、ディベート・交渉などの企画と実行
- ・ 英字新聞や ICT 機器に映し出された視覚情報から必要な情報を探し出したり課題研究したことを発表したりすることができる。
- ・ 検定試験による英語力の検証（英検 2 級取得を目指す）
- ・ 音声教材の活用

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書
- ・ 独自教材
- ・ 英字新聞、時事問題を取り上げた英文
- ・ 資格取得用教材
- ・ 多読用教材（レベル別 ステージ5～6）
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

#### 〔第四年次〕

##### 研究の重点

- ・ 授業内・外での英語使用の場を設定し、高度化した言語活動を多用し、英語による発信型のコミュニケーションを能力の向上を図る。
- ・ より高度な言語活動（スピーチ・プレゼンテーション・ディベート・交渉）をさらに深化した内容で行う。
- ・ 社会的な話題や時事問題に加えて、抽象的な概念についての英文を的確に理解し、意見をまとめる（エッセイライティング等）ことができる力を育成する。

### 実践内容の概要

- ・ 高度化した言語活動の内容や質・量を増加
- ・ 学習到達目標と言語活動の検証
- ・ 英語話者とある程度流暢にやり取りできる機会の設定
- ・ 検定試験による英語力の検証（英検2級、準1級取得を目指す。）
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）
- ・ 4年間の取り組みの検証

### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書
- ・ 独自教材
- ・ 英字新聞、時事問題や抽象的な概念を取り上げた英文
- ・ 多読用教材
- ・ 資格取得用教材
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

### ○平成26年度の進捗状況・課題

#### 小学校

##### 進捗状況

- ・ CAN-DOリストを作成し、授業実践の中で修正を加えながら研究をしている。
- ・ 学校行事や日本文化、京都の観光地・食べ物などに関連した内容を含めてカリキュラムを作成している。2学期から、修正を加えながら試行している。
- ・ 「読むこと」「書くこと」につながる指導を2学期より試行し、授業の冒頭10分間で実施している。1年～4年は学級担任による「読み聞かせ」、5～6年は「文字指導」を導入している。
- ・ 毎回の授業の前に、指導案を専科と学級担任とで打ち合わせをし、授業の流れを確認し、児童の実態に合わせて意見を出し合っている。
- ・ 絵辞典は3学期から活用する予定である。
- ・ 研究授業、研修会を実施し、学識者による指導・助言を受けている。

##### 課題

- ・ 学年毎の達成目標を具体化する必要がある。特に低中学年と高学年との連携の部分で、学習内容が重複する部分があるため、カリキュラムを整備する必要がある。
- ・ 低中学年モジュール活動（読み聞かせ）とコミュニケーション活動の内容の連携を検討する必要がある。
- ・ 効果的なチームティーチング（モジュール活動とコミュニケーション活動）における役割分担の研究をする。
- ・ 身近に触れている英語を読み、多読につなげるための指導法の研究をする。

- ・簡単な自己表現を含む活動や児童が中心となって進めることのできるグループ活動・言語活動の方法を研究する。
- ・来年度以降の授業コマ数を変更する。授業コマ数変更の理由は、毎日、定期的に短時間のモジュールで実施する方が効果的であると考えられるためである。

#### 現在使用している教材

- ・外国語活動型      Let's go 1、Hi, friends! 1,2 、独自教材
- ・教科型              独自教材、独自のフォニックス教材

#### 中学校

##### 進捗状況

- ・CAN-DOリストを作成し、評価方法についても研究を続けている。
- ・小学校英語とのつながりのあるカリキュラムを作成し、現在実施中である。
- ・自己表現や語彙力強化のための辞書指導を、タスクと関連させて継続的に行っている。
- ・文字指導については授業の中で適宜実施している。
- ・論理的にまとまった英文を書くことができるように、教材等工夫し、実施している。
- ・英語によるスピーチ・プレゼンテーションの基礎力育成を、カリキュラムに従って実施している。
- ・タスクの中に必ず、あいづちや質問・コメントをする場面を設定している。また表現一覧表などを配布し、参考にするよう指導している。
- ・多読につながる「読み」の指導を3学期より実施する予定である。
- ・授業は英語で行うことを基本とし、できる限り多くの Classroom English に触れたり、使えたりできるように実施している。
- ・各自、研修会に参加し、伝達研修を行っている。研究授業を行い、学識者による指導・助言を受けている。

##### 課題

- ・今後、小学校の時間数が増えることを念頭に、小中の接続をより意識した教育目標・内容の検討が必要である。特に「読む」「書く」についての入門期の指導方法を考えていく。
- ・小中高のつながり・系統性を考えたカリキュラムの再検討を行う。
- ・「発表」と「やりとり」を重点とした目標・内容を考えていく。
- ・学習到達目標の再確認と再設定を行う。
- ・小中高の接続を意識した指導方法の研究を行う。
- ・発信型タスクとそれへつなげる指導方法を研究していく。（言語活動の工夫）

#### 現在使用している教材

- ・検定教科書、ワークブック、活用型タスクで使用する独自教材、文字指導の独自教材、辞書、ICT機器教材



## 高等学校

### 進捗状況

- ・CAN-DOリストの形での学習到達目標を作成した。
- ・2年生で修学旅行と関連づけたタスクを開発し、実施している。
- ・1年生では毎レッスンの終わりに書く指導を入れ、段落構成の習得ができるように指導をしている。
- ・2学期は1年生でスピーチ、2年生でプレゼンテーションを重点的に指導した。
- ・日々の授業開始時などにペア活動、Q&Aなどを実施し、あいづちや質問・コメントを述べたりする力を育成している。
- ・音読の反復練習を行った後、リテリングや要約などの発表活動をし、自己表現につながる音読指導をしている。
- ・朝の学習時間に速読練習、週末には初見の英文を読んで内容に関する問題に答える課題を出している。
- ・できる限り多くの **Classroom English** に触れたり、使えたりできるように、授業は英語で行っている。
- ・各自、研修会に参加し、伝達研修を行っている。研究授業を行い、学識者による指導・助言を受けている。

### 課題

- ・小中高のつながり・系統性を考えたカリキュラムの再検討を行う。
- ・中高の接続をより意識した教育目標・内容の検討が必要である。
- ・コミュニケーション英語と英語表現の双方で生徒の言語能力を伸ばしていけるような効果的な指導が行えるように、シラバスの再検討を行う。
- ・学習到達目標・教育内容を再確認し、コース別（習熟度別）に再設定する必要がある。
- ・小中高の接続を意識した指導方法の研究をする。
- ・基本的な言語活動を行える基礎学力を定着させる指導法を研究する。
- ・発信型タスクとそれへつなげる指導方法の研究（言語活動の工夫）
- ・相互理解ができる言語活動の指導方法について研究をする。
- ・論理的思考力を育成し、スピーチ・プレゼンテーション・討論・交渉などの高度な言語活動を実践するための指導法を研究する。

### 現在使用している教材

- ・検定教科書、学校行事と連携した独自教材、辞書、資格取得用教材、ICT機器教材

## (6) 評価計画

第一年次～第四年次、校種別

## 【小学校】教科型

	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
対象学年	5年	5・6年	5・6年	5・6年
4月	意識調査	意識調査	意識調査	意識調査
5月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
6月	授業観察	授業観察	検定試験 授業観察	検定試験 授業観察
7月	意識調査 自己評価 パフォーマンステスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 学力テスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 学力テスト 授業観察
8月				
9月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
10月	授業観察	授業観察	授業観察 検定試験	授業観察 検定試験
11月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
12月	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察 学力テスト	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察 学力テスト
1月	授業観察	授業観察	授業観察 検定試験	授業観察 検定試験
2月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
3月	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 学力テスト 授業観察	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 学力テスト 授業観察

## 【小学校】活動型

対象学年	1～4年	1～4年	1～4年	1～4年
4月	意識調査	意識調査	意識調査	意識調査
5月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
6月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
7月	意識調査 自己評価 相互評価 授業観察 ワークシート 作品・発表	意識調査 自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表	意識調査 自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表	意識調査 自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表
8月				
9月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
10月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
11月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
12月	自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート	自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表	自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表	自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表
1月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
2月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
3月	自己評価 相互評価 ワークシート 作品・発表 意識調査 CAN-DO リスト 授業観察	自己評価 相互評価 ワークシート 作品・発表 意識調査 CAN-DO リスト 授業観察	自己評価 相互評価 ワークシート 作品・発表 意識調査 CAN-DO リスト 授業観察	自己評価 相互評価 ワークシート 作品・発表 意識調査 CAN-DO リスト 授業観察

「平成26年度の進捗状況」

- ・概ね、計画通り実施している。

「課題」

- ・より妥当性と信頼性の高いパフォーマンステストを開発する必要がある。
- ・カリキュラム改善に伴うCAN-DOリストの改良をする必要がある。
- ・児童のメタ認知を高め、自律学習を促進できるような形成的評価の要素をより多く取り入れる必要がある。

## 【中学校】

	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
対象学年	第1学年	第1・2学年	第1・2・3学年	第1・2・3学年
4月	意識調査(中1)	意識調査	意識調査	意識調査
5月	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト
6月	検定試験	検定試験	検定試験	検定試験
7月	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査(中1)	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査 CAN-DO リスト	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査 CAN-DO リスト	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査 CAN-DO リスト
8月				
9月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
10月	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト
11月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
12月	定期テスト CAN-DO リスト	定期テスト CAN-DO リスト	定期テスト CAN-DO リスト	定期テスト CAN-DO リスト
1月	検定試験	検定試験	検定試験	検定試験
2月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
3月	意識調査(中1) 定期テスト CAN-DO リスト	意識調査 定期テスト CAN-DO リスト	意識調査 定期テスト CAN-DO リスト	意識調査 定期テスト CAN-DO リスト

\* 定期テストには必ず、活用型（読解力）の問題を入れる。

\* タスク終了後に自己評価シート記入

## 「平成26年度の進捗状況」

- ・概ね計画通り実施している。

## 「課題」

- ・各単元の4観点到達目標に基づき、きちんと評価できているか、評価方法・評価材料の再検討を行う。
- ・CAN-DOリスト・学習到達目標の再検討と検証を行う。

## 【高等学校】

	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
対象学年	第1学年	第1・2学年	第1・2・3学年	第1・2・3学年
4月	意識調査	意識調査	意識調査	意識調査
5月	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト
6月	検定試験	検定試験	検定試験	検定試験
7月	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査 CAN-DOリスト	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査 CAN-DOリスト	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査 CAN-DOリスト
8月				
9月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
10月	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト
11月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
12月	定期テスト CAN-DOリスト	定期テスト CAN-DOリスト	定期テスト CAN-DOリスト	定期テスト CAN-DOリスト
1月	検定試験	検定試験	検定試験	検定試験
2月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
3月	意識調査 定期テスト CAN-DOリスト	意識調査 定期テスト CAN-DOリスト	意識調査 定期テスト CAN-DOリスト	意識調査 定期テスト CAN-DOリスト

\* 定期テストには必ず、活用型（読解力）の問題を入れる。

\* タスク終了後に自己評価シート記入

## 「平成26年度の進捗状況」

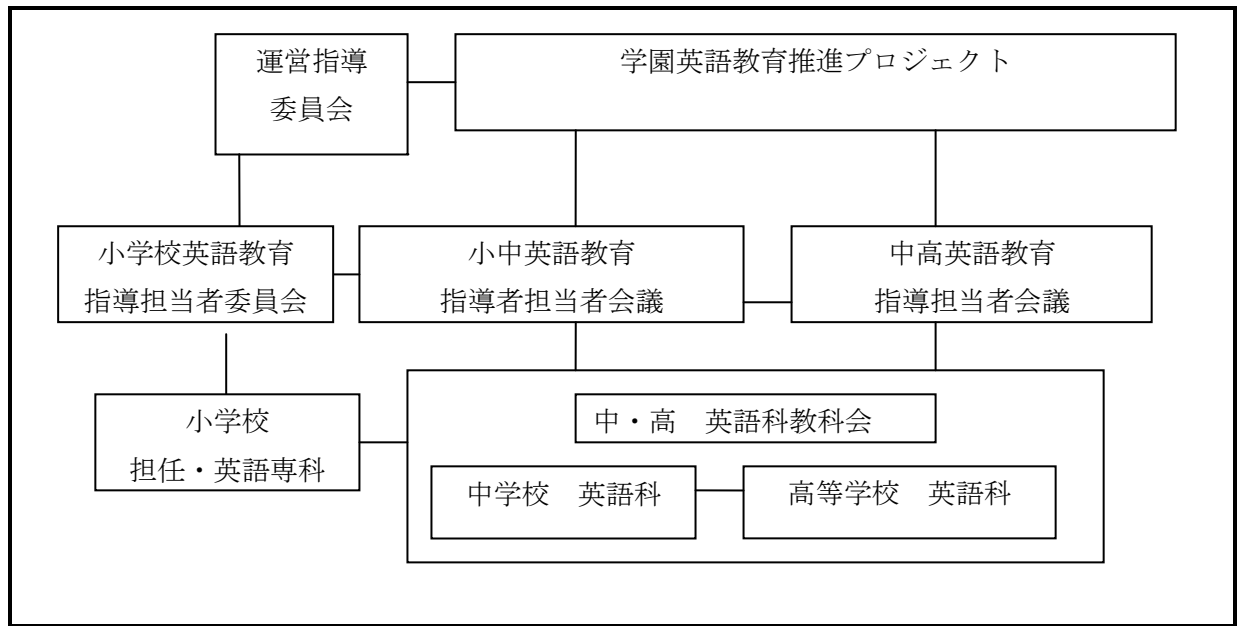
- ・意識調査は実施していない。
- ・パフォーマンステストについては第1～3学年の5月は実施していない。第3学年の9月以降は実施していない。

## 「課題」

- ・各単元の4観点が到達目標に基づき、きちんと評価できているか、評価方法・評価材料の検討を行う。
- ・スピーチ、ディスカッションなどのパフォーマンス評価について検討を行う。
- ・いつ、どの時期に、どの単位において、どのような活動で、どのように評価を行うかなどについて、綿密な評価計画を作成し、担当者間で共通認識する。
- ・CAN-DOリスト、学習到達目標の検討と検証を行う。

#### 4. 研究組織

##### (1) 研究組織の概要



##### ★ 学園英語教育推進プロジェクト

(小中高の校長・教頭、小・中・高英語教育推進リーダー、学園事務局、運営指導委員で編成)

- ・ 運営指導委員会の先生の指導助言のもと共通理解を深め英語教育の推進を図る。
- ・ 年間企画・計画・予定の立案をする。
- ・ 指導者担当者会議を立ち上げ、英語教育を推進していく。

##### ★ 小学校英語指導担当者委員会 (小学校の英語推進リーダー・管理職)

- ・ 週1回指導者会合を持ち、具体的な授業の指導方法や研究授業の計画等
- ・ 「活動型」「教科型」の授業についての研究と実践
- ・ 運営指導委員会の指導のもと具体的な内容・授業の実際等検討し進めていく。
- ・ 決定事項を小学校英語指導担当者委員会が主導となって、小学校に英語教育を推進していく。

##### ★ 小中英語指導者担当者会議 (小・中の英語推進リーダー・管理職)

- ・ 定期的に会議を持ち、小中の接続のための英語教育・方向性の確認、授業と評価等について協議・研究を行う。
- ・ 小学校と中学校の授業交流の企画

##### ★ 中高英語指導担当者会議 (中・高の英語推進リーダー・管理職)

- ・ 定期的に会議を持ち、中高の接続のための英語教育・方向性の確認、言語活動の高度化に向けた授業と評価等について協議・研究を行う。
- ・ 英語授業改善に向けて、改善授業の実践報告・公開授業の企画等を行う。
- ・ 決定事項を中高英語科教科会に伝達・推進していく。

## (2) 運営指導委員会

## 活動計画

## ★ 運営指導委員会

- ・ 学園英語教育推進プロジェクトと協議会をもつ
- ・ 小学校の英語活動から教科化への移行の状況把握と指導
- ・ 小学校英語の実際の検証と改善、次期年度にむけての展望を協議
- ・ 小・中・高のカリキュラムと評価について検討 など
- ・ 研究計画及び実践内容についての状況把握と指導
- ・ 中高の英語科の取組・授業の実際検証 など

## ○平成26年度の進捗状況・課題

- ・ 学園英語教育推進プロジェクトとの協議会が現在のところ、1回しか実施されておらず、第2回の協議会ができなかった。3学期に実施し、今年度のこの事業の進捗状況と課題について協議する必要がある。
- ・ 小学校の教科化への移行については、運営指導委員会において現状報告し、次年度に向けての展望やカリキュラム検討について指導・助言を受けている。次年度における具体的なカリキュラムの変更点などについて今後、協議をする必要がある。
- ・ 小・中・高のカリキュラムと評価について、作成した原案を運営指導委員会で提示し、助言を受けている。
- ・ 研究計画及び実践内容について状況報告し、協議において指導・助言を受けている。
- ・ 中高の英語科の取組・授業の検証については研究授業を定期的に行い、学識者による研修会を実施し、改善点などを指摘してもらい、指導を受けている。小学校の読み聞かせや、中学校につながる「読むこと」「書くこと」につながる指導などについても研修会を行い、指導法を研究した。今後もこれらの研究授業や研修会を継続し、英語科教員全体の指導力を高める必要がある。

## 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	・ 中高英語授業研修	
5月	・ 小学校授業研修 ・ 指導担当者会議(小・中・高) ・ 学園英語教育推進プロジェクト	
6月	・ 中高英語授業研修 ・ 小学校授業研修	第1回運営指導委員会
7月	・ 指導担当者会議 (小・中・高)	

8月	・指導担当者会議（小・中・高） ・研修会（小中高全体研修含）	
9月	・指導担当者会議（小・中・高） ・中高英語授業研修	第2回運営指導委員会
10月	・指導担当者会議（中・高）	
11月	・指導担当者会議（小・中・高） ・中高英語授業研修 ・小中高英語授業研究発表会	
12月		
1月	・研修会	
2月	・指導担当者会議（小・中・高） ・研修会	第3回運営指導委員会
3月	・学園英語教育推進プロジェクト ・指導担当者会議（小・中・高）	
【その他の取組】※あれば記入		

## 〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	学校法人 光華女子学園 担当（植木るり）
連絡先（電話番号）	代表：075-325-5223（内線）268 直通：075-325-5224
（電子メール）	E-mail：rh092@mail.koka.ac.jp